

令和3年度機構評議会で委員から寄せられた主要な指摘事項とそれに対する対応方針

	項目	指摘事項の要約	対応方針
1	研究課題の設定	国立研究開発法人として取り組むべき応用研究の課題を広く公募してはどうか。	機構における研究開発が中長期目標の達成という大きなマネジメントのもとで進められる性質上、毎年の研究課題の決定に公募プロセスを入れることはしていないが、研究開発の方向性を定めるうえで、様々な立場の人の意見を伺うことは大切であると認識している。そのための場として、本日のこの評議会、いろいろな地域での会議への参加、産・学・官のネットワークなどの場を活用し、現場の声をしっかり受け止め、研究を進めて参りたい。
2	研究課題の設定	中高層建築などを木と鉄とコンクリートの混構造で建築するための建築分野の研究者との連携や、エンドユーザーの所まで木材を丁寧に届け、木材をもっと理解してもらうための取組が必要ではないか。	川上と川下の連携については、令和3年度に森林産業コミュニティ・ネットワーク（FICoN）を設立し、木材の利用拡大を軸としたシステム・イノベーションの創出に向けて、企業、大学、公設機関など異分野も含む様々な立場の会員が意見交換し、協創するシステムづくりを進めている。FICoNを初めとするシステムを利用することで所内外の連携を進めると共に、他工法・異種材料等への知見を有する人材を確保しながら、プロジェクトの立案を行い、得られた成果を橋渡しすることで中高層建築等への木材の利用の促進に寄与できるよう努めてまいりたい。
3	成果の普及	研究所の活動や、成果・知見を社会一般の人たちにどう伝えていくかということ、もう少し工夫するとよい。リサーチアドミニストレーターやコミュニケーターのような人を雇えないか。	当機構における広報活動を進める上で、より多くの方に成果や知見を知っていただけるよう広範に発信し、その先でさらに浸透し、記憶に残るようにする工夫が必要と認識している。当機構における成果の発信方法は、現状ではシンポジウムの開催等トラディショナルな方法に依存していると認識している。今後、リサーチアドミニストレーターやサイエンスコミュニケーター等、情報発信を専門とする人材の採用や育成も検討して参りたい。
4	成果の普及	ツイッターで有名な発信者などが一人居ると、だいぶイメージが変わる。そういうことに長けた人をうまく利用できないか。	当機構の広報活動において、SNSを広報のツールとして活用する効果は大きいと認識している。第5期中長期目標期間では、多様な媒体を用いて広報活動を実施することを計画しており、広くSNSなどの利用も考えたい。

	項目	指摘事項の要約	対応方針
5	成果の普及	<p>国産材を使うことの良さをアピールし、国産材が多く使われるような生活をアピールできるような研究を進めてほしい。</p>	<p>世界各国は気候変動枠組み条約に国別温室効果ガスインベントリ報告書を提出することになっており、我が国においても環境省から報告書が提出されている。森林の吸収については、林野庁から環境省に報告されており、樹種別にその算定手法が定められている。この算定手法の開発において、森林総合研究所の研究成果が活用されている。今後、IPCCの委員会への研究者の派遣や国内での講演等を通して、国際社会に研究成果を橋渡しするとともに、国内での正しい認識の醸成に寄与していく。また、交付金プロジェクト「ネットゼロエミッションの達成に必要な森林吸収源の評価」を実施して、2050年に至る土地利用配置・森林管理シナリオを複数想定し、シナリオごとの森林CO2吸収量や伐採木材製品による炭素固定量が推計可能な評価システムを構築する研究を進めていく。</p>
6	成果の普及	<p>森林は単なる二酸化炭素吸収装置ではなく、公益的機能、生物多様性などの生態系サービスの価値も併せてアピールする必要がある。</p>	<p>現在、森林の生物多様性の重要な保護区でもある国立公園の自然資本としての価値を決定する要因を分析する研究を進めており、今後その研究から得られる成果は積極的にPRしたい。また、最近、森林の公益的機能の経済評価について日本人を対象とした支払意思額を分析する研究が行われるようになっていく。また健康・観光・教育等森林サービス産業の意義を明らかにし、森林から得られるベネフィットの多様性を考える研究会を開催している。そこで現在、これらの研究を発展させ、全国のいくつかの地域を対象に林業による収益と公益的機能の総合的な価値を評価して「見える化」する研究を構想している。これは単なる研究に終わらせるのではなく、対象地方の行政担当者や情報共有を行いつつ現場に適用できる形で成果をアウトプットできるように構想している。まとまった研究予算の目処がつけば研究に実際に着手し、将来、社会に自信をもってアピールできる成果をあげていきたいと考えている。</p>